

目標達成計画

作成日: 令和 6年 3月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	長期間にわたるコロナ禍で地域とのつながりが限定的となり、ボランティアの方々の当事業所に対する活動も以前の水準までに至っていない。利用者様の生活のメリハリが少なくなっており、認知症進行防止の観点からも改善の必要がある。	感染予防に配慮しつつ当事業所へのボランティアの活動要請の強化を図る。当面、コロナ禍以前の水準の80%程度の活動を目標とする。	すでに再開した食事作りの他、従来から付き合いのある大正琴、踊り、楽器演奏などのサークルに積極的に働きかけ、定期的な活動を依頼するとともに、新規のボランティア団体の開拓を行うこととする。	12ヶ月
2	6	利用者の安全を確保するため、現在時と状況に応じて行動制限(身体拘束)を行っている利用者に対して極力解除する努力を行う必要がある。	身体拘束ゼロを目指し、身体拘束適正委員会で適正化を事例ごとに検討する。同じく職員研修の充実を図る。	行動制限についてはカンファレンス、申し送りなど、職員間での利用者全員に関する情報共有を密に行い、利用者の健康状態に相応しい内容とする。身体拘束については、委員会で検討し限定的な運用を図ることとする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。